

議案 質疑

阿南澄男 議員

問 御前崎支所を開設した当初の平成16年は職員が12名。18年の3月に規則が改正された以後、7名の職員で業務を行っています。合併時の事務事業のすり合わせの中で支所を設置したと思います。が、どうして支所機能が縮小されたか、その大きな要因と今後の対応は

答 当初は市民室・健康福祉室・地域振興室計12名体制でスタートしましたが、機能評価を行った結果、平成18年度より、今

までの地域振興室・市民室・健康福祉室の3室を廃止統合して、総務係及び市民係の2係7名体制により対応をしてきました。

今後につきましては、市民サービスの低下を招かないよう支所機能の見直し等を含めて検討していきたいと考えています。

岡村 勝 議員

問 バス路線維持費補助金

133万6千円についての関連で、ジャストライ

ンから路線打ち切りの方向が出されているが、検討委員会での現段階における検討内容と今後の方向性は

答 今年の4月に、しずつつジャストラインから相良浜岡線と相良御前崎線、浜岡循環線そして御前崎線の浜岡から東の路線について退出する意向が示されました。6月に旅客自動車会社、県バス協会、市民代表、運輸支局、県、県警の16名で構成される「地域公共交通会議」を立ち上げ、協議をしてきました。浜岡循環線につきましてはスクールバス、その他の路線につきましては自主運行バスでということで調整することになりました。

相良浜岡線、相良御前崎線につきましては、牧之原市と共同による自主運行バスで対応、また、浜岡線の浜岡から東の路線につきましても市単独の自主運行バスで調整しました。前から要望のあった御前崎地区から市役所、病院への路線、公共交通機関の無い比木地区へのルートも視野に入れた路線の設定も考慮しています。

年度内には「地域公共交通会議」を開催し料金の設定、バス停、ダイヤ編成などの協議をお願いする予定ですが、最終決定は2月に開催される「静岡県生活交通確保対策協議会」において承認後決定されることとなります。

清水澄夫 議員

生活保護の実態は？

問 一、今日まで5年間の保護世帯の推移はどうか、また、今後の見通しはどうか。二、生活保護世帯比率は御前崎では何パーセントか、県下ではどの位の位置にあるのか。三、窓口の対応として①申請書を住民から見ても、分かりやすい所に置くこと。②調査は申請書を受けた後にやること

答 合併後4年間の保護世帯の推移と見通しですが、平成16年度が35世帯51人、平成17年度が45世帯70人、平成18年度は40世帯54人、平成19年度は44世帯55人です。今後も同様に推移すると考えている。保護率は1・63%で県下の福祉事務所34あるなかで24位と低くなっています。

問 私のところには、保護の申請に行ったが、意見も聞かなかった、という話がある。生活状況も聞かれないうちに受けられませんかと言われたと聞いている。そういう態度はとっていないか

答 調査の件は、あくまで申請を受けてから行なっておりますので、誤解のないようにして下さい。